

平成30年度

南アルプス市教育委員会
点検及び評価報告書

【平成29年度事務事業分】

平成30年8月

南アルプス市教育委員会

目 次

I 点検及び評価について

- 1 趣旨 1
- 2 点検及び評価の対象とした事務 1
- 3 評価の点数表 1

II 点検及び評価のまとめ

- 1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 2
- 2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価 2

III 教育委員会の活動についての点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況 7
- 2 教育委員会の活動に対する点検及び評価 13

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

- 1 教育委員会事務局の事務事業について 15
- 2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋） 16
- 3 南アルプス市の教育振興プラン 体系（教育委員会関係抜粋） 17
- 4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について 18

I 点検及び評価について

1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆様に公表をしています。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成 19 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものです。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行った結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進してまいります。

2 点検及び評価の対象とした事務

(1) 教育委員会の活動に関する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

(2) 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

南アルプス市では南アルプス市総合計画の進行管理を行うための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しています。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。また、平成 29 年 4 月に策定した「南アルプス市の教育振興プラン」との関連について、施策の体系にある 8 つの施策に該当する番号を事務事業ごとに表示しました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としました。

- | |
|-----------------------------------|
| ①事務事業総数：217事業 |
| ②点検及び評価した事務事業：165事業 |
| ③点検及び評価から除いた事務事業：52事業 |
| ※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。 |

3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 (P13、2 (1)～P14、2(5)の平均)・・・平均評点：3.5

教育委員会定例会を12回、臨時会を1回開催しました。会議では、規則等の制定改廃、重要案件の協議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行いました。

教育委員会事務局業務では、教育委員会定例会や総合教育会議等で効率的な会議運営を図るため、出席者に対し、議案や資料を事前配布しました。

研修会等への参加や学校訪問では、教育行政課題への対応、学校現場の現状と課題の把握ができました。

2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

(1) 基本政策：1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名：02 市民参加のまちづくり (P18、施策02の3事業の平均)・・・平均評点：3.0

「青少年対策事業」の国内交流・交流支援事業では、夏休みの期間を利用し、姉妹都市の児童・生徒による交流を行いました。

北海道津別町との国内交流事業は、小学校6年生による訪問団派遣を行い、津別町の小学生から高校生の児童・生徒との交流を行いました。

東京都小笠原村との国内交流事業は、小笠原村中学生訪問団を受け入れ、前年度小笠原村へ訪問した生徒及びジュニアリーダーとの交流を行いました。

石川県穴水町との国内交流事業は、穴水町小学生訪問団の受け入れにより、櫛形北小学校児童との交流を行いました。

訪問団派遣と訪問団受け入れのいずれにおいても子どもたちとの交流において、相手先の地域を知ること、改めてふるさとの良さを発見できたとともに、お互いの地域を認め合い、子ども同士の友情も育まれたと感じています。

(2) 基本政策：4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名：19 生涯学習の振興 (P18～施策19の55事業の平均)・・・平均評点：3.0

「公民館運営」では、公民館の館長、主事が中心となり、地域の実情にあった公民館活動を実施しました。

また、「生涯学習推進事業」では、数多くの学習機会の提供や、自主的な学習の支援に努めました。親子向けの講座を多数取り込むことにより、参加者を増やすことができました。今後も、文化財課、市立図書館、市立美術館と連携した講座や講演会を開催していきたいと考えています。

「スポーツ推進委員運営事業」、「南アルプス市体育協会支援事業」では、スポーツ推進委員及び市体育協会への支援により各種のスポーツ教室と大会が開催され、多くの市民が参加しました。今後も生涯を通じてスポーツを楽しむ市民行動の定着に向け支援を行っていきます。

「体育施設整備事業」では、市内7校の小学校グラウンド照明をLED照明に交換しました。リニア建設工事に伴う、甲西市民総合グラウンド移転（拡張）に伴って測量及び用地の調査を実施しました。

また、楕形テニスコート（クレークコート6面）をクレークコートから人工芝コートに変更をした。人工芝特有のスピード感やバウンドなど試合で実践できるプレーの練習が可能となることで利用者の増加が期待できます。

「各種社会教育施設」では、直営施設及び指定管理者制度導入施設ともに、効率的な管理運営に努めました。また、「南アルプス市公共施設等総合管理計画」に基づき、平成30年度末を目指して各施設の建設・改修にも取り組んでおります。

「市立図書館」では、「ブックスタート」「おはなし会」など、子どもたちが小さいときから読書に親しみ、読書習慣を身につけられるような定期的事業のほか、「子ども講演会」「図書館クイズラリー」などを展開しました。また、ブックスタート事業の発展として、小学校新入学児童に本を手渡す活動「セカンドブック事業」を開始し、秋の読書週間中に市内小学校1年生全員に本を贈ることができました。

一般向けには、「講演会」「シニア講座」「教養講座」「生活支援講座」などを開催し、市民の幅広いニーズを支援しました。また、ふるさと人物室を計画的に運営し、ふるさと教育を推進しました。

中央図書館芦安分館は、改修・整備を行い、平成30年2月19日にリニューアルオープンし、市民が利用しやすい読書環境となり好評を得ています。また、児童クラブへの団体貸出も開始し、図書館サービスの向上を図りました。

市立美術館では、市民に親しまれ、芸術文化の楽しみを発見できる美術館を目指して各種事業を展開しました。年4回の常設企画展と企画展の「木村利三郎追悼展」及び「安野光雅の世界展」を開催し、1万人余の来館者がありました。また、大型連休などには、市内中学校美術部との共同事業として小中学生を対象とした「ワークショップ」や図書館と連携した「おはなし会」などを積極的に実施し、芸術文化に触れる機会を増やしました。また、巨摩高校吹奏楽部による毎月1回の「美術館フロントコンサート」を実施し、新しい視点での教育普及活動に努めました。成人者向けには「木版画実技講座」「美術講演会」「作家によるギャラリートーク」「彫り実演」などを実施し、市民の生涯学習の場を提供し、文化意識の向上や美術に対する理解と親しみを深める活動を展開しました。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (P24~施策20の22事業の平均) ・ 平均評点 : 3. 1

本施策では、市民共有の財産である、市内の歴史的・文化的資源の適切な保護とこのような資産の存在を知ってもらい、市民に活用してもらうための教育普及事業を両輪として事業展開を行っています。

「文化財の保護」については、所有者・管理者への適切な助言や補助事業の実施などでこれに努

める一方、「教育普及事業」を実施し、平成 29 年度は実施数 252 回、のべ参加人数 12,234 人を数えました。内訳は小中学校等に出向いた回数が 148 回、教職員向けの研修が 21 回、その他一般向けの講座等が 83 回でした。こちらについては、本市における「ふるさと教育」推進に資するため、依然として全国的に見ても高い活動量を維持しており、学校現場や地域からのニーズが高いことが看取されます。今後ともこれを維持し、応え続けるための事業の効率化や体制の検討が求められます。

「埋蔵文化財」については、市域における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るために、適時適切な試掘確認調査等の実施に努める一方、「保存活用整備事業」による親しみやすいイベント等の実施やガイドブックの刊行などに取り組み、その価値の周知に努めました。また、市内出土の重要文化財、鋳物師屋遺跡出土の「円錐形土偶」のキャラクター「子宝の女神 ラヴィ」を多方面に展開し、本年度はドーム形体験ツールの制作なども行いました。

「ふるさと文化伝承館」の入館者数は、事業のスリム化を図ったこともあり、前年度実績をやや下回りましたが、平成 30 年度に実施される大規模改修工事に向け、本年度はその設計業務を委託しました。また本年度は、条例の改正により施設設置目的の明確化、館長の設置の明記などを行い、ハードソフト両面から体制強化を図っています。

「安藤家住宅管理運営事業」、「同イベント事業」では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう適切に管理しながら、地域文化発信の拠点として利用してもらえよう活用を図っています。平成 29 年度は、入館者数総数としては前年を下回りましたが、懸案であった蟻害へ対策を行い、アライグマなどへの獣害についても対応するなど、重要文化財としての本質的価値を損なわないよう努めました。

「ふるさと〇〇（まるまる）博物館推進事業」では今年度、市内のうち八田・芦安地区を集中調査地区として、古文書、建造物、そして地域でのオーラルヒストリ（口承）の採取などで精力的に活動し、年度末には市民向けの報告会を行いました。また南アルプス市版のデジタルアーカイブの構築にむけて、首都大学東京渡邊英徳研究室との共同研究も始まっています。平成 30 年度以降も積極的に事業を推進して参ります。

社会教育団体に認定された地域の伝統文化活動への支援により、伝統芸能等の伝承・保存、本市を発祥とする小笠原流礼法の普及推進に寄与しました。

今年度からは市内保育所等の年長児を対象に 8 施設で計 2 回ずつ、あいさつなどの道具を使わない初歩的な礼法を実施しました。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (P26~施策 21 の 75 事業の平均) 平均評点 : 3. 1

「育英奨学会事業」では、適正な事務の執行に努め、目的に合致した奨学生の選考を行いました。

「小学校施設設備整備事業」では、市立15小学校の既存施設・設備の維持管理や、トイレ洋式化など環境改善のための改修及び更新を行いました。

「豊小学校校舎大規模改造事業」では、経年により発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置を行い、建物の耐久性の確保を図りました。

「落合小学校屋内運動場改築事業」では、耐力度調査により危険建物とされた、屋内運動場の改築工事を完了しました。

「非構造部材耐震化事業」では、9小学校の校舎及び屋内運動場の天井の改修や照明器具の落下防止、ガラス飛散防止等の工事を実施しました。

「中学校施設設備整備事業」では、市立7中学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

「白根御勅使中学校改築事業」では、耐震性において躯体コンクリートに問題のあった校舎の改築工事を完了しました。

「非構造部材耐震化事業」では、若草中学校の校舎及び屋内運動場の天井の改修や照明器具の落下防止、ガラス飛散防止等の工事を実施しました。

「就学援助事業」においては、小中学校に通う経済的に恵まれない児童・生徒への適切な支援を行いました。

「市指定研究事業」では4つの指定校研究事業に取り組みました。1つ目の「学びの質を高める授業づくり推進事業」については、3校（若草南小：2年目、櫛形西小：1年目、甲西中：1年目）を指定校とし、児童・生徒が互いの考えや思いを聴き合い、学び合う授業づくりについて研究を推進しました。特に若草南小の研究は、大学講師を招聘して実践を積み重ねた結果であり、各学級の授業改善と教員の授業力の向上に効果がありました。2つ目の「南アルプス自然体験推進事業」については、ユネスコエコパークに認定されている芦安小・中学校を指定校とし、事業を展開しました。南アルプスの自然を舞台とした登山や各種の体験活動を実施し、ふるさとを愛する心や人間性を育む取組を行いました。3つ目の「いじめ・不登校未然防止推進事業」については、市内全小・中学校でQ-U検査を行うとともに、アドラー心理学を取り入れた研修会を実施し、支援を必要としている児童・生徒への早期対応を図りました。4つ目の「小中学校における小笠原流礼法推進事業」については、師範を全小・中学校に派遣し、礼法を取り入れた心の教育を推進しました。また、道徳の教科化に向け礼法を取り入れた年間指導計画（小学校）を作成しました。

また、「県指定研究事業」である「英語教育強化地域拠点事業（白根巨摩中、白根飯野小、白根東小、白根高校）」については、小学校高学年の外国語科、中学年の外国語活動の授業改善に取り組み、先行実施に向けた基盤をつくることができました。

「市単講師派遣事業」では、34名の市単講師（内1名は事務職員）を小中学校へ配置し、多人数学級への対応、複式学級の解消、特別支援教育の推進、基礎学力の向上及び一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導の充実等を図りました。特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、今後も教育支援センターを含め、体制の整備充実を図ります。

「教育支援センター事業」では、学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室を設置し、家庭や学校と連絡を取りながら学習支援、教育相談を行い、学校復帰を目指しました。

「外国語指導講師配置事業」では、小中学校に11名のALTを配置し、「聞く・話す」ことを

中心に指導を行い、児童・生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができました。また、生の英語に触れる中で、他国の文化や外国語（英語）に親しみをもたせることや国際的な理解を深めることができたと考えます。

「教育環境づくり」においては、「スクールガードリーダー事業」や地域ボランティアを活用した「学校応援団育成事業」に取り組み、児童・生徒の安全確保や教育活動全体の充実を図りました。また、国際化が進む中、「姉妹都市交流プロジェクト推進事業」では、話せる英語を身につけるため、小学生対象の英語体験プログラム「イングリッシュキャンプ」を実施しました。参加者は113名（小3生2人、小4生38人、小5生39人、小6生34人）でした。

「学校給食費支援事業」では、小・中学校へ3名以上の子どもが通っている保護者210名に対し助成を行いました。

「各学校給食」では、アレルギーマニュアルに基づき、児童・生徒のアレルギー食への対応を実施しました。給食費の未納については教育的配慮をし、督促をしながら給食費の徴収を行いました。また、児童手当を受けていながら給食費を滞納している保護者からは同意を得た上で、児童手当からの徴収を進めています。さらに3者懇談時に保護者との面談を行って、給食費の納付を促しています。

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (P33、施策22の10事業の平均)・・・平均評点: 3.2

「青少年対策事業」では、青少年育成南アルプス市民会議への支援、各支部子どもまつりへの支援、南アルプス市子どもクラブ指導者連絡協議会への支援を行い、心身ともに健やかな次代を担う青少年の健全育成を図りました。また、「成人式挙行事業」においては、桃源文化会館に703人の新成人を招き、成人の門出を祝いました。

地域の子どものリーダーとして活躍できる子どもを育成する目的で開催している「ジュニアリーダー養成事業」においては、中・高校生を対象に月1回のリーダー研修を開催しました。また、夏休みには研修を受講したジュニアリーダーに新たなジュニアリーダー候補として小学6年生を加え宿泊研修を実施し、47名の参加がありました。

Ⅲ 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と5人の委員で構成しています。

(1) 教育委員会の定例会・臨時会

教育委員会は、定例会を原則、毎月開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しています。

また、必要に応じ、随時、臨時会も開催しています。

○開催状況・定例会 12回、臨時会 1回

開催月日 (区分)	案件区分	件名
4月14日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会事務局組織規則の一部改正 ・南アルプス市教育委員会事務決裁規程の一部改正について ・南アルプス市教育委員会文書管理規程の一部改正について ・南アルプス市教育委員会公印規則の一部改正について ・南アルプス市教育振興プランの策定について ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ・南アルプス市中央公民館、地区分館長及び主事の任命について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ・南アルプス市図書館協議会委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会年間（前期）及び4・5月行事予定について ・緊急連絡網について ・指定学校変更願の報告について
5月16日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市学校規模・配置適正化検討委員会設置要綱の制定について ・南アルプス市奨学金貸与奨学生の決定について ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市中央公民館長の任命について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ・南アルプス市文化財審議会委員の委嘱について ・南アルプス市小中一貫教育検討委員会設置要綱の制定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更願の報告について ・市教委学校訪問について ・南アルプス市教育委員会5・6月行事予定について
6月15日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市学校規模・配置適正化検討委員会委員の委嘱又は任命について ・南アルプス市小中一貫教育検討委員会委員の委嘱又は任命について ・南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会6・7月行事予定について

7月7日 (定例会)	議事	・南アルプス市社会教育団体の認定について
	その他	・指定校変更の許可状況について ・教育委員会の点検及び評価報告書の作成について ・南アルプス市教育委員会7・8月行事予定について
8月9日 (定例会)	議事	・平成30年度使用 小学校道徳教科用図書の採択について ・指定学校変更の承認について
	その他	・教育委員会の点検及び評価報告書について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会8・9月行事予定について
9月14日 (定例会)	議事	・南アルプス市美術館協議会委員の委嘱について
	その他	・教育委員会の点検及び評価報告書について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会9・10月行事予定について
10月6日 (定例会)	その他	・指定学校変更の許可状況について ・全国学力・学習状況調査について ・南アルプス市教育委員会後期及び10・11月行事予定について
11月8日 (定例会)	議事	・南アルプス市生涯学習センター条例等の一部改正について ・南アルプス市社会体育施設条例の一部改正について ・指定学校変更の承認について
	その他	・指定学校変更許可状況について ・南アルプス市教育委員会11・12月行事予定について
12月15日 (定例会)	議事	・南アルプス市生涯学習センター条例施行規則等の一部改正について ・南アルプス市ふるさと人物室運営委員会設置要綱の制定について ・南アルプス市ふるさと人物室運営委員会委員の委嘱等について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・文化財課に関する用地の買収について ・南アルプス市教育委員会12・1月行事予定について

1月11日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について
2月6日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・南アルプス市教育委員会文書管理規程及び南アルプス市教育委員会事務決裁規程の一部改正について ・南アルプス市教育支援センター設置要綱の一部改正について ・南アルプス市学校体育施設等の利用等に関する条例の一部改正について ・南アルプス市ふるさと文化伝承館条例の一部改正について ・南アルプス市立学校給食センター条例の一部改正について ・南アルプス市立学校給食運営委員会条例の廃止について ・南アルプス市立学校給食センター条例施行規則及び南アルプス市学校給食費徴収規則の一部改正について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について
2月27日 (臨時会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）整備基本計画について ・区域外就学の許可について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市立小中学校の規模及び配置の適正化に関する提言について
3月27日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市スポーツ推進委員の解嘱及び委嘱について ・南アルプス市中央公民館主事の解職及び任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市小中一貫教育に関する提言について ・南アルプス市における部活動の方針について ・学校閉庁日の設定について ・南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について

(2) 総合教育会議

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律により、平成27年6月から開催しています。会議については市長が招集し、市長、教育長、教育委員の構成により、市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整を行っています。

○開催状況・・・年 3回

開催月日	案件区分	件名
8月7日	協議事項	・子どもの貧困について
11月14日	協議事項	・学校教育におけるICTの活用について
2月20日	協議事項	・小中一貫教育と地域との協働について

(3) 学校訪問

教育委員会では例年、5月～6月にかけて市立小・中学校22校を訪問し、子どもの様子や教員の指導方法など、細やかに見て回っています。視察終了後は、学校側と意見交換を行い、課題があれば改善するよう助言などを行っています。

(4) 研修会等への参加

教育委員会では、各種研修会、総会及び大会等に積極的に参加し、教育行政に関する情報収集や各市町委員との意見交換等を行い、各自の資質向上に努めています。

1 中北地区教育委員会連合会

月日	件名	出席者
4月28日	平成29年度総会及び研修会	教育委員・教育長
8月2日	第1回理事会	教育長・教育長職務代理
2月21日	第2回理事会	教育長・教育長職務代理

2 山梨県市町村教育委員会連合会

月日	件名	出席者
7月24日	第1回理事会	教育委員
9月4日	県へ要望書の提出	教育委員
10月25日	秋季研修会	教育委員・教育長
2月8日	第2回理事会	教育委員
2月16日	定期総会及び春季研修会	教育委員・教育長

3 県外研修

月日	件名	出席者
5月26日	関東甲信越静市長村教育委員会連合会定期総会並び研究大会（神奈川県大和市）	教育委員・教育長
10月3日	中北地区教育委員会連合会 教育事情県外視察研修（東京市三鷹市）	教育委員・教育長
11月16日	南アルプス市教育委員会県外研修（長野県松本市）	教育委員・教育長

その他各種大会・行事への出席 ※全教育委員が出席対象のみ掲げております。

月日	件名
4月	市内小中学校入学式
4月9日	南アルプス桃源郷マラソン大会
5月24日	青少年育成南アルプス市市民会議総会
10月6日	特別企画展「安野光雅の世界展」オープニングセレモニー
10月17日	公開授業（白根飯野小・東小・白根巨摩中学校）
10月26日	峡中・峡北地区 地域教育フォーラム

11月1日	山梨県市町村教育委員研究会教育長・教育委員会議
11月	市内一斉あいさつ運動（小・中学校対象）
11月8日	芦安小中英会話科 学校説明会
11月9日	市制施行14周年記念式典
11月22日	拡大校内研究会（櫛形西小学校）
11月27日	拡大校内研究会（甲西中学校）
11月30日	公開授業（若草南小学校）
1月7日	成人式
1月18日	公開授業（白根東小学校）
2月26日	白根御勅使中学校校舎 竣工式
2月27日	教育研究発表会・教育講演会
3月26日	落合小学校屋内運動場 竣工式
3月	市内小・中学校卒業式

2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「総合教育会議」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校・教育施設への支援」の5項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

また、その他の意見シートにおいては、教育委員会事務局の活動の中で、特に気がついた点を記載しました。

(1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	3.3
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○定例会 12 回、臨時会 1 回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月 1 回開催した。更に必要が生じたため、臨時会を 1 回開催した。 ・限られた時間の中、慎重且つ効率的な会議運営を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①議案はいずれも慎重に審議を行い、内容により継続的に審議を行った。 ②必要な会議の回数は確保されている。 ③必要な案件には臨時会を行うなど、柔軟に対応できた。 		

(2) 総合教育会議

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○年 3 回 ・市長召集のもと会議を開催した。 ・市長と教育委員会の連携強化、協力体制による教育行政推進を図ることが可能となった。 ・教育行政の諸問題等について、限られた時間の中で、効率的な会議運営に努めた。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 3 回行われた総合教育会議で、その年の教育行政に係る諸問題が提案され意見交換をすることにより、教育行政の改善及び推進に繋がった。 ② 諸問題の内容によっては、すぐに改善に繋がりにくいものもあり、長期的、継続的な取り組みとなるので、経過報告も必要である。 ③ 本市の教育行政に係る諸問題について、意見交換を行うことで、ふるさと教育に繋がれば良いと考える。 		

(3) 教育委員と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	4.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・議案や資料を事前に配布することで、会議等までの調査研究が可能となるよう、情報提供を行った。 ・会議日程についても、事前調整を図り、可能な限り出席できるよう綿密な連絡調整を行った。 ・参考文献等の情報提供についても、速やかに行った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①会議資料等を事前に送って頂く事で、あらかじめ問題点を整理して会議に臨むことができた。 ②会議日程や情報提供などに対し、丁寧な説明や調整があり様々な要因を踏まえ会議に臨めた。 ③会議資料の変更があった場合にも速やかに対応し、混乱しないよう配慮があった。 		

(4) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3.3
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会県外研修に参加した。 ・中北地区教育委員会連合会県外研修に参加した。 ・南アルプス市教育委員会県外研修に参加した。 ・その他 各種研修会、会議へ参加した。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各種研修会等へ参加することで、教育委員としての知見を深める上で、大変有益であった。 ②各種研修会で行われた講演は、有益な内容であった。 		

(5) 学校・教育施設への支援

点検項目	学校訪問	評点	4.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校 22 校の学校訪問を行い、各学校の特色ある学校経営の取組み状況を聴取した。 ・各教室の授業内容を視察し、給食の試食をする中で、学校現場との意見交換を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各学校が抱える課題、児童生徒の実態、教職員の指導力などを理解することができた。 ②市教育委員会と各学校の目指すところがしっかり共有できた。 ③訪問者それぞれの立場から指導評価できたことは、学校現場にとって有益であったと考える。 ④各学校の特色を知り、学校がチームとなって動く姿や、児童生徒の将来や学校生活に前向きに取り組む姿が確認できた。 		

(6) その他の意見シート

意見	<p>①ふるさと人物室は設置2年目となるが、市民がふるさとに誇りや愛着をもち、ふるさと教育につながる良い企画である。</p> <p>②教育委員会の各課が市民を巻き込む様々な工夫をした企画を行い、南アルプス市の特色や一体感を推進している。</p> <p>③美術館や文化財課等、専門的なスタッフがそろっているので、子どもたちへの質の高い教育に貢献している。</p> <p>④様々な教育施設が老朽化し、又、時代のニーズと合わなくなっていることが分かった。22校、順次改善されていけるよう見守っていきたい。</p>
----	---

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げています。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、二つの基本政策が設けてあります。

1つ目の基本政策を「安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成」とし、その施策名を「市民参加のまちづくり」としております。

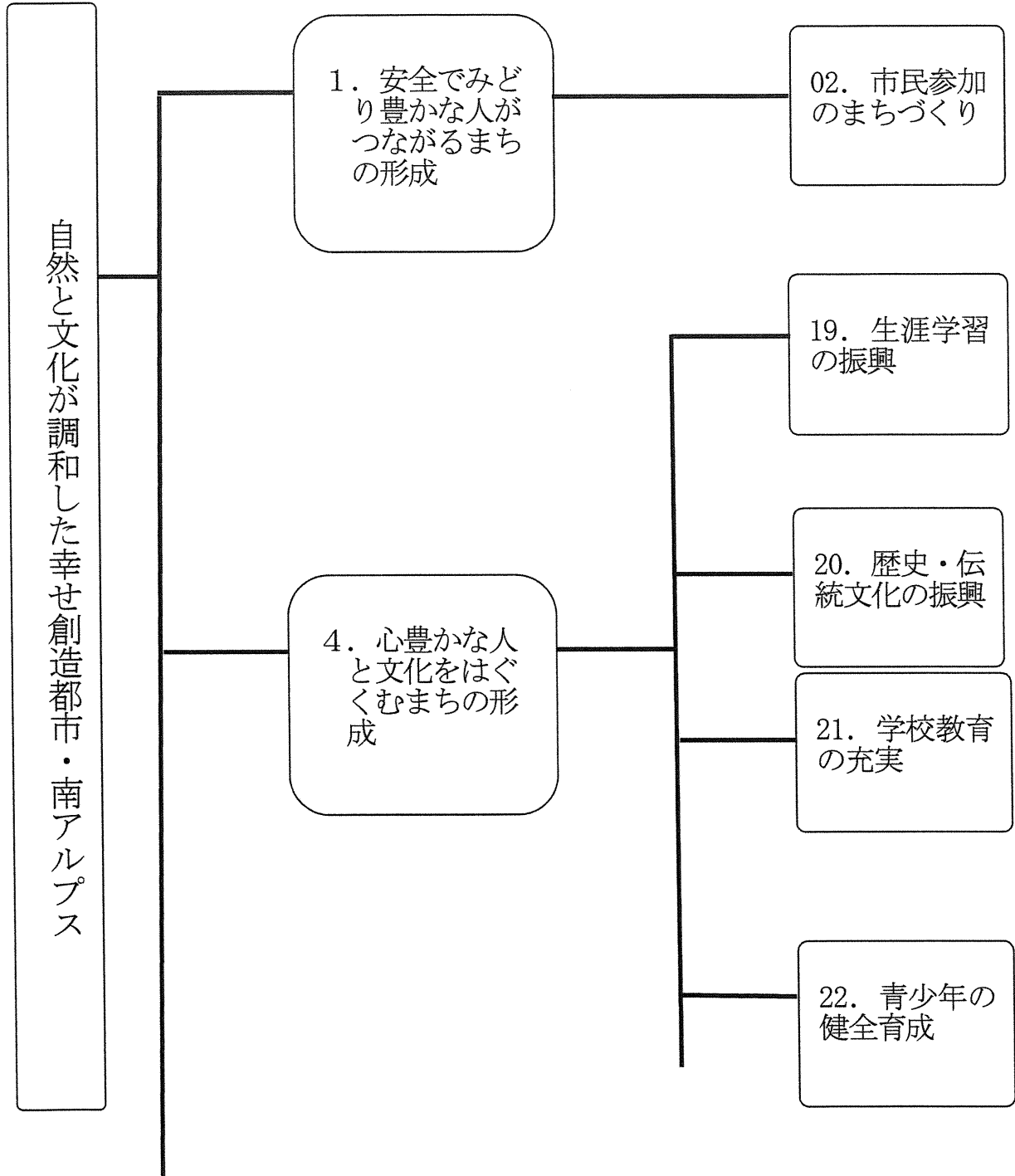
2つ目の基本政策は「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」とし、その施策名を「生涯学習の振興」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「青少年の健全育成」としてあります。

2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）

〔将来像〕

〔基本政策〕

〔施策名〕



3 南アルプス市の教育振興プラン 体系（教育委員会関係抜粋）

目指す姿	基本目標	施策	施策の柱	
<p>南アルプス市の未来を創る人づくり</p> <p>く生きる力を育み、ふるさとを愛する心を培う、南アルプスの教育</p>	<p>未来を切り拓く学校教育の充実</p>	1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 個に応じたきめ細かな指導 ② 社会情勢に対応した教育 ③ 特別支援教育の充実 	
		2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① ふるさと教育の推進 ② 道徳教育の充実 ③ 一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実 	
		3 健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの体力向上 ② 食育・健康教育の推進 	
		4 学びを支える環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 教職員の資質・能力向上 ② 地域・家庭と連携した学校づくり ③ 小中一貫教育の推進 ④ 学校教育施設・設備の整備・充実 ⑤ 経済的支援の充実 	
	文化の振興	歴史・伝統 郷土の	5 地域文化の継承とふるさと教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域資源の保存・活用 ② ふるさと教育の推進
	<p>生涯にわたる学習環境の整備・充実</p>	6 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習機会や情報の提供・充実 ② 学習の成果を活かす環境づくり ③ 市民主体の活動支援 ④ 生涯学習拠点の整備 ⑤ 読書活動の推進 	
		7 子どもの成長を支える環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域ぐるみで子どもを育む環境づくり ② 青少年の健全育成の推進 ③ 放課後の子どもの居場所づくり 	
		8 スポーツ・レクリエーションの振興	<ul style="list-style-type: none"> ① 生涯スポーツ活動の推進 ② 人材の育成と団体支援 ③ スポーツ施設の整備・充実 	

4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02 市民参加のまちづくり (3事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
青少年国内交流事業 (津別町)	3	平成29年度は小学生19人が参加。川遊びや農場、木工体験や流氷館見学など山梨ではできないことを体験することができ、津別町への理解を深めることができた。	6
青少年国内交流・交流 支援事業 (小笠原村)	3	平成29年度は23人 (生徒23人、引率5人) の受入で、平成28年度小笠原村へ訪問した生徒及びジュニアリーダーとの交流会を実施し、生徒たちとのふれあいの時間を持つことができた。今後も継続して実施していく。	6
青少年国内交流・交流 支援事業 (穴水町)	3	平成29年度は29人 (児童24人、引率5人) の受入で、櫛形北小学校児童との交流会を実施し、子どもたちとのふれあいの時間を持つことができた。今後も継続して実施していく。	6

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19 生涯学習の振興 (55事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
公民館運営管理事業	3	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図る。平成28年度は2,481人の参加があったが、前年比6.2%の減となった。開催時期の影響により中止となった公民館事業もあった為、今後は開催時期を検討し確実な実施を行う。	6
白根中央公民館運営管理事業	3	生涯学習課管理施設として、効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満 (6.5%) となっており、施設の利用環境は充実している。	6
生涯学習推進事業	3	市民の学習機会の充実を図り、自主的な学習活動を支援する。講座43回 (前年44回) を実施し、参加者1,594人 (前年1,172人)、参加者数は前年比36%増であった。昨年同様、親子向けの講座を多数開催したことにより、参加者数が増となった。今後も要望が多い講座を継続実施するとともに、新規の講座も開催していく。	6
社会教育関係団体活動 支援事業	3	各地域の社会教育団体21団体に対し補助金を交付し、市民が積極的に社会教育活動に参画する事業。	6
八田高度農業情報センター 運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満 (6.5%) となっており、施設の利用環境は充実している。	6

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
若草生涯学習センター 運営管理事業	3	指定管理者制度により効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.5%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
甲西農村環境改善セン ター運営管理事業	3	シルバー人材センター等を活用し、効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.5%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
芦安高齢者コミュニ ティーセンター運営管 理事業	3	本施設は、芦安中央公民館としての位置付けである。伝統文化活動の「夜叉神太鼓」の練習場や高齢者のおやつサービスの提供場所としての利用。利用者数は1,630人(前年1,599人)で、放課後子ども教室として定期的に利用したことにより、対前年度比は2%増となった。公共施設再配置の方針に基づき、老朽化のため、平成30年度に取り壊し予定。	6
ふるさと天文館運営管 理事業	3	ボランティアグループにより、50cmの望遠鏡を使って天体及び天文現象等の観測及び解説を実施。利用者数283人(前年279人)、対前年比は1.5%増となった。	6
橿形北地区農村環境改 善センター運営管理事 業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行ったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.5%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
橿形西地区農村環境改 善センター運営管理事 業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行なったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.5%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
南アルプス市働く婦人 の家運営管理事業	3	平成28年度から市直営施設として、放課後児童クラブを中心として子育て支援課による管理運営を行なったが、児童クラブ支援員の負担が多くなったため、平成29年度からは生涯学習課による管理運営を行うことになった。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.5%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
生涯学習指定管理施設 等維持補修事業	3	生涯学習施設の緊急修繕や維持補修事業。修繕12箇所、5,712千円を実施。	6
桃源文化会館運営管理 事業	3	市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は10%未満(6.3%)となっており、施設の利用環境は充実している。	6
桃源文化振興協会運営 支援事業	3	一般財団法人桃源文化振興協会の人件費補助事業である。	6
桃源文化会館施設整備 事業(大規模)	3	平成27年度に実施した桃源文化会館の建築物調査を基に実施設計業務委託契約を締結。平成29年度は工事費を予算計上して平成30年2月に着工。同11月からの貸し出し開始を目指し施工中である。	6

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市文化協会活動支援事業	3	(一財) 桃源文化振興協会へ事務を委託しており、各地区の文化団体(平成29年度108部1,898人、平成28年度110部2,011人)に補助金を交付している。前年度比2部減113人減となっているが、実績報告未提出の団体には補助金を不交付としているため、毎年前後している。生涯にわたって学習活動を行っている割合は29.4%(肯定、やや肯定)で、前年比1.8%減となった。	6
スポーツ推進委員運営事業	3	スポーツ推進委員が行う教室、大会の参加者数を成果の指標とし、実施した。成果は平成28年度1,685人から平成29年度1,742人に18人、1%増加している。今後も参加者が増加するよう継続していく。	8
南アルプス市体育協会支援事業	3	体育協会主催事業数を成果の指標とし、大会、教室を開催した。桃源郷マラソン大会、市駅伝大会他計11事業を実施した。今後も事業を継続していく。	8
県外スポーツ大会出場支援事業	3	県代表として、県外大会へ出場する際の経費負担軽減のため、補助金を交付する。平成29年度は28件の申請があった。今後も県外大会で成果を上げられるよう継続していく。	8
南アルプス市ホームタウンゲームの活動支援事業	3	ヴァンフォーレ甲府の本市サンクスデーで特産品を配布しPRを実施した。また、平成29年度から山梨クィーンビーズのホームタウンゲームを再開した。今後も本市PRのため、継続していく。	8
スポーツ大会等保険加入事務	3	各種スポーツ教室等の傷害保険に加入している。これまで大きな怪我や事故はないが、今後も継続していく。	8
小中学校ホッケー指導者派遣事業	3	ホッケー大会参加者数を成果の指標とし、指導者を派遣した。平成28年度から小笠原小学校の新規参加があり、指導者を増員している。今後はさらに参加者が増加するよう派遣を継続していく。	8
市ホッケー大会運営事業	3	ホッケー競技の普及を成果の指標とし、大会を開催した。平成28年度から小笠原小学校の新規参加があり、参加者数が増加している。今後はさらに参加チームが増加するよう大会を開催していく。	8
全国スポ少ホッケー交流大会派遣・参画事業	3	市ホッケー大会の優勝校を全国大会へ派遣した。今後も市の特色あるスポーツとして出場選手に全国レベルを体感しホッケー競技への意欲を増すとともに技術の向上を図れるよう継続していく。	8
桃源郷マラソン大会活動支援事業	3	市内外からの参加者が7,000人であり、マラソン大会は15回を数え定着してきている。今後も参加者が見込めるため、継続していく。	8
スキー・スノーボード教室開催事業	3	参加者数を成果の指標とし、初心者スキースノーボード教室を開催している。平成28年度は95人、平成29年度は82人が参加した。今後も参加者が増加するよう継続していく。	8
社会体育施設維持管理事業	3	市民が安全で便利に体育施設を利用し、年間を通してスポーツに親しむため、修繕を実施。社会体育施設等の利用者数は平成28年度658,149人、平成29年度603,078人で前年比8.4%減であった。LED工事等に伴う利用休止期間があったため利用者減となった。今後も継続していく。	8

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
社会体育施設指定管理事業	3	指定管理者に適正な管理運営を委託する事業で、社会体育施設等の利用者数は平成28年度658,149人、平成29年度603,078人で前年比8.4%減であった。原因はLED工事等で利用休止期間の増加が考えられる。今後も継続していく。	8
屋外照明施設LED化事業	3	小中学校グラウンド及び社会体育施設21施設の屋外照明を平成30年度までにLED化に改修し、電気代、球替え等維持管理費を削減していく。平成29年度は7施設の工事を実施した。	8
八田高度農業情報センター改修事業	3	公共施設再配置計画に基づく事業。八田窓口サービスセンター入居に伴う改修工事及び八田農業者健康管理センター跡地の駐車場整備は当初計画のとおり完成済。平成30年5月21日から業務を開始している。	6
若草生涯学習センター改修事業	3	公共施設再配置計画に基づく事業。若草窓口サービスセンター入居に伴う改修工事は完成済。平成29年5月29日から業務を開始している。	6
白根生涯学習センター建設事業	3	新たな生涯学習活動の拠点施設を目指し、生涯学習センター機能と図書館機能を合わせ持った複合施設として整備を進めている。平成29年10月に着工。平成30年7月5日より運用を開始。引き続き外構や駐車場整備を進め、平成30年9月の完成を予定している。	6
《H29新規》甲西市民総合グラウンド機能回復事業	3	リニア建設工事に伴う甲西市民総合グラウンドの再整備に向け、土地鑑定、現地及び用地測量、用地調査、基本計画策定業務を実施した。	8
《H29新規》芦安高齢者コミュニティーセンター解体事業	3	公共施設総合管理計画に基づく事業。解体工事に関わる設計は完了しており、平成30年度中に解体予定。	6
《H29新規》橿形テニスコート人工芝化新設事業	3	独立行政法人日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成金を活用して、既存のクレーコート6面を砂入り人工芝に改修した。人工芝になったことで、利用者が練習しやすい環境となり、利用者の増加が見込める。	8
《H29新規》芦安学校給食共同調理場改修事業	3	公共施設総合管理計画に基づく事業。芦安高齢者コミュニティーセンター解体に伴い、その調理室機能を移転するための改修工事で、平成29年度に設計を完了して平成30年度に着工、同11月からの運用開始を目指している。	6
《H29新規》橿形西体育館改修事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化等を実施する事業である。平成29年度は、実施設計を実施した。	8
《H29新規》橿形北体育館改修事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化等を実施する事業である。平成29年度は、実施設計を実施した。	8

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市立図書館維持管理事業	3	市内各図書館の施設及び備品の適切な維持管理に努め、市民が安全で快適に利用できる環境を提供した。今後も施設の維持管理に関わる委託契約・支出色務、備品の状況確認を行い、施設内の環境美化に努める。	6
市立図書館運営事業	4	市立図書館の円滑な運営を行い、読書活動や学習活動を高めるため館内掲示や特集コーナーの充実を図った。また、ふるさと人物室を計画的に運営し、ふるさと教育の推進を図った。成果指標のレファレンス（調査相談）件数は6,488件で前年比10%増となった。今後も市民の必要とする情報を提供していく。	6
市立図書館資料提供事業	3	市内各図書館では、新聞39紙・雑誌369誌を市民に提供している。雑誌の貸出数は30,345冊で前年比3%減。インターネットからも最新情報を得られることが要因として考えられる。今後、市民に最新情報を提供していくために資料提供サービスの周知を図る。	6
市立図書館子どもの読書活動推進事業	4	おはなし会、図書館クイズラリー、環境講座、感想文おたすけ隊、詩を楽しむ会、子ども講演会等を実施し読書活動の推進を図った。成果指標である18歳以下の貸出点数は、84,568冊で前年比15%増。今後も関係機関と連携を図り事業を継続していく。	6
図書館協議会運営事務	3	年3回、図書館協議会を開催し、市立図書館の運営について地域住民の声を反映させるとともに諮問に応じた。今後も協議会を計画的に開催し、市民の要望や意見を図書館運営に反映させていく。	6
図書館システム管理事業	3	定期的にシステム会議を実施し、図書館システムの安全な管理を行った。今後も安定的な環境を維持しシステムの運用を図っていく。	6
図書館生涯学習推進事業	3	図書館講演会や定期的な朗読会のほか、シニア講座、教養講座、ボランティア養成講座、生活支援講座等多様な学習機会を提供し、生涯学習支援及び図書館利用の拡大を図った。図書館事業参加者数は4,327人で前年比7%増。今後も魅力的な講座を企画し周知していく。	6
ブックスタート事業	3	健康増進課で実施している4ヶ月健診時に、市内で生まれた全ての赤ちゃんと保護者にブックスタートパックを配布した。「おはなし会0.1.2」の参加者は1,577人。今後も健康増進課と連携し、継続して実施していく。平成29年度から開始した小学校新入学児童に本を手渡すセカンドブック事業は、市内全1年生638人に本を贈ることができた。今後、保護者アンケート等を実施し、より充実した事業となるようにする。	6
図書館資料購入事業	3	選書会議を週1回行い、購入資料の検討により購入している。資料貸出総数は434,630冊で前年比5%増。今後も市民の暮らしに役立つ資料及び地域資料の収集を継続していく。	6
図書館事務研修事業	3	職員研修会に積極的に参加した。成果指標である研修参加者数は達成度100%。今後も図書館の動向や資料情報を得て、研修の成果を図書館運営に反映させていく。	6
櫛形生涯学習センター管理事業	3	平成26年度から市の直営となり、効率的な管理・運営に努めている。利用者の満足度も高い。今後も環境美化や安全管理に努め、市民が利用しやすい管理・運営をしていく。	6
図書館司書臨時職員配置事業	3	市立図書館の円滑な運営を図るために、司書臨時職員を配置し、効果的な図書館運営を行った。今後も現状を維持し、よりよい図書館運営を行う。	6

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市立美術館維持管理事業	3	美術館の施設の適切な維持管理に努め、来館者が安全で気持ちよく施設を利用できる環境を提供した。また、収蔵作品が良好な状態で保管できるように維持管理を行っていく。	6
美術館企画展事業	3	多様な芸術文化を鑑賞する機会を提供するため、幅広い年代に人気の高い「安野光雅の世界」展を実施した。また、版画を収蔵品の核とする美術館として、ニューヨークで活躍し、日本版画史に大きな足跡を残した木村利三郎のご遺族から作品を寄贈いただいたことを記念し「木村利三郎追悼」展も実施した。質の高い芸術文化に接することにより市民の文化意識を高めるとともに、入館者の増加促進に繋げていく。	6
春仙美術館常設展	3	名取春仙はもとより、本年度から南アルプスと富士川流域の作家たちという、南アルプス市及び富士川流域にゆかりのある作家を紹介する展覧会を実施した。当館コレクション及び市にゆかりのある作家を紹介することにより、親しみがあり、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開していく。	6
《H29新規》市立美術館リニューアル事業	3	開館から26年が経過し、施設や保存環境の劣化等が見られることから、2月よりリニューアル事業を開始した。平成31年1月のオープンを目指し、増改築事業を展開していく。	6

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (22事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
夜叉神太鼓保存会活動 支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員 数は前年比1人増の11人。	6
甲州遠光太鼓保存会活 動支援事業	3	地域の伝統芸能の保存と継承に努め、地域の交流を深めた。会員 数は前年比3人増の18人。	6

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
文化財保護活用事業	4	文化財等を地域の宝として次世代に伝えていこうとする市民の割 合を指標とし、実績値は81.6%で前年比103%であった。今後とも 文化財を適切に保護・保存するよう努めていく。	5
文化財教育普及事業	4	実施した講座等の回数、参加人数を指標とし、達成率はそれぞれ 前年比33% (252回)、44% (12,234人) の増となり高水準を維持 している。今後とも地域ニーズをくみ上げつつ、より効率的な事 業執行に努めていく。	5
宝珠寺のマツ松くい虫 防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う 松くい虫防除事業の補助を行った。合併後14年間木の状態は良好 に保たれている。今後も補助を継続していく。	5
鏡中条のゴヨウマツ松 くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う 松くい虫防除事業の補助を行った。合併後14年間木の状態は良好 に保たれている。今後も補助を継続していく。	5
長谷寺の防災施設保守 点検支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし文化財防災施設 保守点検事業の補助を行った。合併後14年間建造物は良好に保た れている。今後も補助を継続的に実施していく。	5
文化財教育普及看板設 置事業	4	本年度は、当初からの予定であった「小笠原長清館跡」に加え、 年度途中で県補助を獲得したことにより、「野牛島のビヤクシ ン」の説明板を刷新することができた。今後とも、市民が市の歴 史に親しみを持てるような情報発信を行っていく。	5
フィールドミュージア ムふるさと学芸員育成 事業	3	指標とした伝承館の入館者数は7,101名と達成率106%、育成人数 は100%である。育成したふるさと学芸員は、着実に力をつけ、実 際にイベントなどでの教育普及の実践も行っている。	5
埋蔵文化財調査受託事 業	3	民間開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査2件を受託し、適切に記録 保存措置を図った。達成率100%	5

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市内試掘確認調査事業	3	市内の遺跡の保護が図られた数を成果の指標とし、達成率は100%。試掘数は31件で前年比94%。例年並みといえる。	5
埋蔵文化財保存活用事業	3	教育普及用のクリアファイルの作成、埋蔵文化財ガイドマップの改定のほか、子宝の女神ラヴィのドーム形体験ツールの制作など積極的な事業展開を行った。また、ソフト事業としても伝承館を舞台に「ものづくり教室」の展開などを行った。	5
国指定史跡「御勅使川旧堤防」整備事業	3	平成29年度は、当初の予定通り、史跡の整備基本計画を策定することができた。平成30年度以降は、この計画に基づき、実際の整備につなげていきたい。	5
ふるさと文化伝承館（文化財調査事務所）維持管理事業	3	資料の適切な保管、入館者の安全な利用はできていたと考えられる。文化財等を地域の宝として次世代に伝えていこうとする市民の割合を指標とし、実績値は81.6%で前年比103%であった。	5
ふるさと文化伝承館運営事業	3	文化財等を次世代に伝えていこうとする市民の割合は、値81.6%で前年比103%であった。入館数は7,101人で前年比96%。今後とも歴史・文化に対する市民の理解が高まるよう事業展開していく。	5
安藤家住宅運営管理事業	3	入館者数は4,474人、昨年度比82.1%と減少した一方、懸案だった白蟻対策の実施や、アライグマなどへの獣害対策を行った。今後とも来館者増を目指しながら、重要文化財そのものの価値を損なわないように適切に管理・運営していく。	5
安藤家住宅イベント開催事業	3	本年度も「秋祭り」をはじめ、多様なイベントを開催した。内容は例年見直しを行っているが、イベント年間入館者は2,963人で前年比93%となった。今後は、さらに市民ニーズにあったイベント企画を心がけたい。	5
《H27新規》フィールドミュージアム推進事業	3	年次計画に基づき、八田・芦安地区の歴史的資源の掘り起こし作業を行い、年度末に市民向けの報告会を開催した。来年度以降も着実に事業をすすめるとともに、市民向けに一層の事業周知を行い、事業への参画を促したい。	5
芦安伝統文化継承事業	3	芦安地域の活性化の基礎となるよう、本年度は芦安で地域めぐりイベントを実施したほか、郷土食である「しょうゆの実」について情報発信看板の設置を行った。	5
《H29新規》ふるさと文化伝承館改修事業	3	平成29年度は、ふるさと文化伝承館の永続的かつより高度な活用を目指し、平成30年度に実施する改修工事の設計業務を委託した。	5
《H29新規》甲西文化財調査事務所解体事業	3	公共施設再配置にともなう甲西文化財調査事務所の解体について、平成29年度はその設計業務委託をおこなった。	5
《H29新規》伝統文化保存推進事業	3	伝統文化の継承について、より良い施策の立案と仕組みづくりを検討した。平成30年度に体系的に確立したものとしたい。	5

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (75事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育長交際活動費	3	教育行政執行のため外部との交際上必要な経費である。 今後も内部基準に照らし、厳正に執行されるよう管理していく。	-
教育委員活動事業	3	定例(臨時)教育委員会の開催。学校訪問及び教育研修など積極的に行い、知識向上を図った。	-
教育委員会事務局管理 事務	3	節電の励行やコピー用紙のリサイクルなど、無駄のない予算管理に努めた。	-
巨摩高校定時制教育振 興会参画事業	3	本市のほか、地域自治体(富士川町、中央市)や生徒の雇用主、同窓会等で組織され、生徒の部活動、国際交流事業、校外活動などの支援を目的として負担金を支出している。今後も適正に執行されるよう管理していく。	-
小林愛則育英奨学会支 援事業	3	将来社会の中核となる人材を育成することを目的とし、高校3年間奨学金を給付している。平成29年度は9人へ奨学金の給付を行った。	4
芦安活性化対策育英奨 学金貸付事業	3	芦安地区の過疎対策事業として育英奨学金貸付事業を行っている。平成29年度は1人へ奨学金の貸与を行った。	4
南アルプス市奨学金貸 与事業	3	申請により高校生及び大学生の保護者に対し、要件審査を経て適正な事務処理により奨学金を貸与した。	4
小学校施設設備整備事 業(単独)	3	予算執行率92.16%。学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。	4
豊小学校校舎大規模改 造事業	3	老朽化が著しい校舎に対する大規模改造工事を実施する。平成29年度は、予定どおり工事を実施し、事業は完了した。	4
落合小学校屋内運動場 改築事業	3	老朽化が著しい屋内運動場の改築工事を実施する。平成29年度は、予定どおり改築工事を実施することができた。	4
中学校施設設備整備事 業(単独)	3	学校からの修繕・改修要望に対し整備できた校舎、屋内運動場等の箇所数を成果指標としている。学校要望を精査し、緊急度の高い施設から整備することができた。	4
小林愛則育英奨学基金 積立金	3	基金へ預金利子を積み立てた。今後も適正な執行に努める。	4

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
南アルプス市奨学基金 積立金	3	基金へ預金利子及び貸与者からの返還金を積み立てた。今後も適 正な執行に努める。	4
白根源小学校校舎等非 構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、予定通り工事を実施し、事業は完了した。	4
白根御勅使中学校改築 事業	3	普通校舎の躯体に問題箇所が発見され、専門家による調査分析を 行ったところ、改築の必要性が示された。平成29年度は予定通り 改築工事を実施した。	4
芦安小学校非構造部材 耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
小笠原小学校非構造部 材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
楡形北小学校非構造部 材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
楡形西小学校非構造部 材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
白根東小学校非構造部 材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 H29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
若草小学校非構造部材 耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
若草中学校非構造部材 耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
《H29新規》教育施 設長寿命化計画策定事 業	3	インフラ長寿命化基本計画に基づき、教育施設の長寿命化計画を 策定する事業である。平成29年度は教育施設の実態を把握するた めの調査を実施した。	4
《H29新規》小中 学校適正規模・適正配 置事業	3	南アルプス市学校規模・配置適正化検討委員会を設置。市立小・ 中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方について 調査研究を行い、教育委員会に対し提言を行った。	4
《H29新規》若草南 小学校非構造部材耐震 化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計を実施した。	4
大明小学校非構造部材 耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。 平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
南湖小学校非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。平成29年度は、設計及び工事を実施し、事業は完了した。	4
《H29新規》豊小学校屋内運動場非構造部材耐震化事業	3	国の基準に基づく、非構造部材の耐震化を実施する事業である。平成29年度は、設計を実施した。	4
《H29新規》甲西支所維持管理事業	3	清掃、警備、修繕等、甲西支所庁舎を維持管理を行う事業である。平成30年度に改修を行う予定であるため、修繕や消耗品等の購入については必要最低限となるようにして経費節減に努めた。	-
《H29新規》甲西支所改修事業	3	甲西支所庁舎の老朽化に伴い、改修を行う事業である。平成29年度は設計を実施した。	-

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育支援センター運営管理費	4	学校へ登校することが困難な生徒への学習支援・教育相談を行ってきた。保護者や学校と連携を図る中で、学校復帰・高校進学を目指して取り組んだ。また、臨床心理士による入所生徒や保護者へのカウンセリングを通して、生徒への支援を丁寧に行った。在籍者12名のうち、学校復帰5名、高校進学5名、就職1名。	2
市単講師派遣事業	3	目的どおり34人の市単講師等を配置し、支援を必要としている児童生徒に対して、きめ細かな指導をすることができた。支援が必要となる児童生徒は増加傾向にあるので、市単講師の増員が課題である。	1
司書臨時職員配置事業	3	目的どおり12人の臨時職員を配置し、全ての学校に司書を配置することができた。今後も現状を維持し、学校図書館の有効活用を支援する。	4
用務員臨時職員配置事業	3	目的どおり芦安小中学校を除く学校に用務員を配置することができた。今後も現状を維持し、児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう支援する。	4
学校図書館蔵書管理事業	3	学校図書館の蔵書とその貸出等をシステムで管理するとともに、学校・公立図書館間で情報共有を行うことができた。今後も学校図書館の有効活用を図るため継続していく。	4
英語教育強化地域拠点事業	4	白根地区（白根飯野小・白根東小・白根巨摩中・白根高）の指定校を中心に、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んできた。指定校として取り組む最終年度であり、指導と評価の一体化、異校種間の連携、教職員研修等を計画的に実施し、研究成果を市内小中学校に示した。また、22校を対象に協議会を実施し、その徹底を図った。	1
学事管理事務	3	学齢簿の管理や転学等の就学事務を円滑に実施することができた。さらに、学校予算のうち学事管理事務で一括計上できるものは予算を集約し、歳出の削減に努めた。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学びの質を高める授業づくり推進事業	3	指定校（2年次：若草南小 1年次：櫛形西小・甲西中）を定め、児童生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。また、授業公開によって、研究内容を市内の小中学校に示した。年度末には教育委員会が主催し、市内22校の教職員を対象とした成果報告会と講師を招聘しての教育講演会を実施した。	1
南アルプス自然体験推進事業	3	ユネスコエコスクールである芦安小・中学校を対象に南アルプス市の身近な自然を生かした体験学習を通して、児童生徒に南アルプス市の自然や伝統文化について学ばせる機会とした。小学校は夜叉神峠、栗沢山登山、中学校は北岳登山を中心とした学習に取り組んだ。	2
いじめ・不登校未然防止推進事業	3	予算執行率87.3%。小学校3年、5年、中学校1年でQ-U検査を実施し、学級、学年の集団分析を行い、いじめや不登校の未然防止、早期解消に向け、その活用を図った。また、教育講演会を実施して困難を抱える児童生徒やその保護者の理解、学校としての支援のあり方等について研修を深めた。	2
スクールガードリーダー事業	3	児童生徒が安全に安心して登下校できるように、通学路の巡回や学校周辺のパトロールを実施した。また、県主催の研修会への参加及び打合せ会議の開催により、スクールガードの資質向上を図ることができた。	4
教育推進管理事務	3	指導主事等が研修に参加し、その成果を市内22校に還流しながら、必要な指導・助言を行った。また、国や県からの指導、教育雑誌から得られた最新情報、研究結果等を具体化し、学校訪問や研究会で提示した。	4
南アルプス市学校応援団育成事業	3	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め1,400名以上の登録を得た。特に、小学校においては読み聞かせや農業体験をはじめとした体験活動や環境整備等、学校の要望に対応した講師を派遣することができた。	4
小中一貫教育調査事業	3	地域や学校の実態・特性に応じた小中一貫教育の在り方について研究を進めた。小中一貫教育の目的や方向性、施設分離型、施設隣接型小中一貫校の特性等について検討がなされ、「南アルプス市小中一貫教育に関する提言」がまとめられた。	4
小中学校教師用指導書・教師用教科書購入事業	3	平成30年度から小学校で教科化される道徳科に対応した教師用指導書と教科書を購入した。市内小学校の全学年に指導書を一冊ずつ購入。教師用教科書は、平成30年設置予定の学級数分購入した。	2
学校災害補償保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入。	4
南アルプス市姉妹都市国際交流プログラム推進事業	3	小学生を対象とした英語に慣れ親しむための体験活動プログラムである。北伊奈ヶ湖湖畔を利用して日帰りのプログラムを2日間行った。日常生活では使わない英語を使う機会となり、他校の児童との交流を深めることもできた。	1
芦安教育推進事業	3	芦安地区の活性化のため、芦安地区の特色である英会話科や自然体験活動の充実等を中心に、小中学校が連携して行う教育活動のPRに主眼を置いて取り組んでいる。学校説明会に先立ってのチラシの作成や英会話科に関わる消耗品の購入に充てている。	1

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
小中学校清掃委託事業	3	事務局へ予算を一括計上。入札により選定した業者により小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を行い、快適な学校環境の維持向上に努めた。今後も適正な業者選定と清掃の実施に努める。	4
第二次小中学校教育系情報ネットワーク整備事業	3	事務効率の向上のため教職員に一人1台PCの配置や校務支援システムの提供等を行い児童生徒と向き合う時間の確保に努めた。また、平成27年度に導入したタブレット型端末の保守を行った。	4
若草南小学校情緒障害通級指導教室	3	若草南小に設置されている通級指導教室に係る消耗品費等の経費。市立小学校の普通学級に所属する軽度の情緒障害児童を対象に音楽療法を行っている。より良い発達につなげるため、今後も継続していく。	4
小中学校における小笠原流礼法推進事業	4	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う2名の師範を市内小中学校22校に派遣する。心を育てることを主眼に置いた指導によって、小・中学校9年間を通じた取組となっている。教職員対象の実技講習や卒業証書授与伝達講習会等を実施し、指導にあたる教職員の理解度も高めてきた。	2
学校消火器管理事業	3	予算執行率98.8%。事務局予算へ一括計上。製造から10年を経過し、法令上期限切れとなる市立小中学校に設置済みの消火器の入替を行った。今後も継続して入替を行っていく。	4
外国語指導講師配置管理事業	3	11名のALTを配置し、小・中学校において英語でのコミュニケーション指導を行った。通常の授業の他、教職員の英語力・指導力アップのための研修、小学生対象のイングリッシュキャンプ、英語教育強化地域拠点事業への協力にも活用した。	1
小学校管理費	3	予算執行率98.8%。事務局予算へ一括計上。自家用電気工作物保安管理、夜間警備、浄化槽管理清掃の委託料。今後も継続し学校設備等の維持管理に努める。	4
小学校地域ふれあい道徳教育推進事業	3	児童の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業。1校当たり4万円の事業費。主に講師謝金に支出。今後も現状を維持して学校教育の充実を図る。	2
小学校要保護就学援助及び特別支援教育就学奨励費事業(補助)	3	要保護世帯の児童2人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する児童47人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。今後も適正な事務の執行に努める。	4
小学校準要保護就学援助事業(単独)	4	準要保護世帯の児童400人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も41人実施することができた。今後も適正な事務の執行に努める。	4
中学校管理費	3	事務局予算へ一括計上。自家用電気工作物保安管理、夜間警備、浄化槽管理清掃の委託料。今後も継続し学校設備等の維持管理に努める。	4
中学校部活動コンクール・コンテスト参画事業	3	芦安中学校を除く中学校の合唱部や吹奏楽部等が各種大会に参加するための負担金の支払いを行った。今後も現状を維持し、生徒の文化的活動の場を広げていく。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
中学校ヘルメット購入 支援事業	3	芦安中学校を除く自転車通学の生徒が補助対象。自転車通学の250人に対し、ヘルメット購入代金の半額を補助した。今後も現状を維持して生徒の登下校時の安全保持を図る。	4
中学校地域ふれあい道 徳教育推進事業	3	生徒の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業。1校当たり4万円の事業費。主に講師謝金に支出。今後も現状を維持して学校教育の充実を図る。	4
中学校関東大会・全国 大会支援事業	4	学校教育活動の一環として県外で行われる関東・全国大会に出場する経費の一部を補助した。部活動の充実やスポーツへの意欲の向上のため、今後も継続していく。	3
中学校要保護就学援助 及び特別支援教育就学 奨励費事業（補助）	3	要保護世帯の生徒2人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する生徒26人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。今後も適正な事務の執行に努める。	4
中学校準要保護就学援 助事業（単独）	4	準要保護世帯の生徒228人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も67人実施することができた。今後も適正な事務の執行に努める。	4
《H29新規》教育相 談事業	3	多様化する児童生徒の諸問題に対し、臨床心理士と新たに教育相談員を配置し、児童生徒及び保護者等の相談を行った。また、相談専用電話（ふれあいダイヤル）を相談窓口として開設し、広く周知した。相談件数は、来所159件、電話相談204件、訪問相談186件、巡回相談109件であった。	2

所属 : 市立学校給食センター

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学校給食費徴収事業	3	99.3%の収納率を成果の指標として徴収率の向上を図り、徴収率は99.09%で概ね達成できた。今後は他市町村の徴収方法等を参考に更なる徴収率の向上を目指す。	3
学校給食費支援事業	3	小中学校へ3人以上の子どもが通っている保護者を対象に支給した。申請者は218人、支給者は210人であった。学校との連絡を密に行い、市ホームページにも掲載して申請漏れのないように努めた。	4
白根八田学校給食セン ター給食事業（学校給 食）	3	学校給食を安心安全に提供するため、食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。また、食材の購入については、複数の業者から見積りを徴し、最安値の業者と月ごとに契約を行った。地産地消の食材についても、遊休農地を活用したJAこま野女性部と新たな契約を締結した。	3
白根八田学校給食セン ター維持管理事業	3	学校給食を安心安全に児童に提供するため、給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。	3

芦安学校給食センター維持管理事業	3	給食施設に関わる維持管理を行った。	3
学校給食受配校施設改修事業	3	南部学校給食センター建設に伴う豊小学校配膳室の整備と若草学校給食センターの解体工事を行った。学校と施工業者と連絡を密に行い、事業を完了した。	3
新学校給食センター運営事業	3	学校給食を安心安全に提供するため、食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応や、食育指導を行った。また、食材の購入については、複数の業者から見積りを徴し、最安値の業者と月ごとに契約を行った。地産地消の食材についても、遊休農地を活用したJAこま野女性部と新たな契約を締結した。	3
新学校給食センター維持管理事業	3	南部学校給食センターとして、学校給食を安心安全に児童に提供する給食施設及び厨房備品の維持管理を行った。	3
白根八田学校給食センター大規模改修事業	3	蒸気ボイラー更新、身障者用階段昇降機更新及びアレルギー対応調理室の設置工事を行った。	3

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (10事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
青少年育成コーディネーター設置事業	3	地区のコーディネーターとしての役割が大きいと、規程を改正し平成29年度より名称を「青少年育成コーディネーター」と改めた。市民会議の掲げる青少年育成活動を推進するため各地区(支部)の中心となり取り組みを行っている。	7
青少年育成推進会議運営事業	3	市から委嘱された青少年育成推進員111人(定員112人)が青少年のための取り組みに参加している。また市民会議の専門委員会にも所属し青少年の健全育成運動を推進している。夏と冬に啓発チラシを市内全域へ新聞折込を行った。	7
ジュニアリーダー養成事業	3	中高校生を対象に地域で子どものリーダーとして活躍できる子どもたちを育成するため、月1回研修会を開催している。夏休みには小学6年生も加え47人(前年比28.8%減)が宿泊研修会に参加した。	7
放課後子ども教室推進事業	4	平成29年度当初から新しく墨絵教室が加わり6教室を開催。募集要項も児童館と学校に配布し、市内全域に周知、地域の枠を越えて参加を募る。参加延べ人数は、1,379人(前年比40.6%増)であった。平成30年度からは子育て支援課が所管する。	7
成人式挙行事業	3	新成人の門出を祝うとともに、大人としての自覚とリーダーの意識をもち活躍することを願い式典を開催している。成人者841人中703人、参加率83.6%(前年810人中693人参加。参加率85.6%)	7
市子どもクラブ指導者連絡協議会支援事業	3	76団体ごとに指導者が中心となり、育成会事業が行われている。市主催事業として、親睦球技大会は平成29年度は18チームが参加した。映画上映会参加者は、308人であった。	7
南アルプス市警察署管内少年補導員支援事業	3	少年の非行防止活動の推進及び各種防犯団体等との連携を図ることを目的として活動している協議会への補助金。	7
キッズタウン南アルプス支援事業	3	職業体験をベースとした青少年育成事業への補助金。平成28年度参加者は小学生約200人であったが、平成29年度134人(前年比33%減)であった。子ども達が地元業者の仕事を体験し、仕事の意義や大切さを学んだ。	7
情報機器教育推進事業	4	平成28年度から子どものインターネットの取り扱いに対するチラシ作成や学習会を開催している。29年度は冊子を作成し5年生以上中学3年生迄に配布。また学校での学習会等4回を実施して注意喚起を促した。	7
青少年育成南アルプス市民会議支援事業	3	次代を担う青少年の健全な育成のために青少年の問題を市民全体で考え諸活動を展開している青少年育成市民会議への補助金。H28年度から市民会議を一本化し、各地区を支部と改め活動を行う。	7